

特集・宮崎会員の隨想第31話番外編

女傑　広瀬晴子　元モロッコ王国特命全権大使　日本モロッコ協会会長

一般社団法人日本モロッコ協会の会長は、設立当初から不文律ではあるがモロッコ王国特命全権大使経験者と定められている。第5代会長に広瀬晴子元モロッコ王国特命全権大使が選ばれ、協会に初めて女性会長が誕生した。2014年のことである。

かつての日本モロッコ協会はよたよたした組織であったが、広瀬さんが会長に就任してからは質・量ともに大きく発展をとげた。



広瀬晴子会長

これまで仕事を通じて多くの女性の活動を見てきたが広瀬さんの識見は群を抜いている。一言で評するなら当人は嫌がるであろうが女傑である。

広瀬さんはチャレンジ精神が旺盛でどんなことにも果敢に挑み、決して尻込みすることはない。そして生まれながらにして持っているのか、これまでのキャリアで培ったものかいずれかであろうが、人を動かすことに長けていて周りの人を巻き込み持ち駒としてうまく活用している。

歴代の会長は個人としては有能なのだろうが、極端な言い方をすれば唯我独尊的で、民間企業の修羅場を潜り抜けてきた有能な理事達をまとめ、自身の思う通りに人を動かし、働いてもらうことが不得手で結果協会を進展させる力に乏しかった。

広瀬さんは就任以来、卓越したアイデアと実践力を兼ね備えたパワーで様々な新機軸を打ち出し新しい事業を立ち上げてきた。

人間誰しも公私に渡って長年培ってきた“人脈”を持っていて大切にしているものだが、自身が長年にわたって築き上げてきた人脈はよほどのことがない限り、人に勝手に利用させるようなことはしないものだ。

日本モロッコ協会はその性格上、当然のことながら駐日モロッコ大使館や外務省等と緊密な連携を取らねばならない事案が多い、いずれも会長の重要な職務であり歴代の会長は独りで出向き何事も決めてきた。居並ぶ理事達も会長専権事項と思い込み受け止めてきた。

理事会の席上で会長から、こうなりましたこう決めましたと一方的に報告を受けるが、聞いている理事はそうですかと頷き、時には勝手に決めて誰が対応するのかと、しらけムードとなることもあるが、当のご本人は理事会での冷ややかな反応を判じ切れずにいた。

新会長となった広瀬さんはまったく違っていた。モロッコ大使館や外務省はじめとする個人的に作り上げてきた自身の人脈をフル活用しながら、しかも抜かりなく必ず協会の要である理事長や事務局長、時には理事を伴い先方に紹介して組織対組織の関係を構築するよう努力している。むろん同道した者を議論にも巻き込み、時には大使館では通訳に徹することもある。

これまで関係する外部組織とは、会長自身対組織の関係であったものが、今や組織対組織の関係へと変わり定着してきているのである。仮に代が変わっても先方との関係は途切れることなく継続できる。このような配慮ができる人は男女の性別を問わずとても少ないものだ。協会の新プロジェクトが定着し、



ブルガル大使夫妻と会長



中央ナイジェリア大使と廣瀬会長



中央アルール大使

個人や法人の会員が飛躍的に伸長したのも廣瀬さんを会長に迎えてからである。

当たり前のことながらどんな組織でも坐していては、会員は増えていくものではない。

20数名の理事全員が自身のもつ人脈に働きかけければ会員はもっと増えるはずだがと思うのだがそうはなかなかならない。組織運営の難しさであり限界なのだろう。

日本モロッコ協会は閉鎖的な組織であった。理事諸侯も暗黙でそれをよしとしてきた。

廣瀬さんは協会の組織風土にもメスをいれた。例えば閉鎖的な内輪のイベントや勉強会であったものをオープンにして会員以外にも開放した。結果としてそこに参加した人から入会申し込みがあり会員が増えていく好循環の仕組みを作った。

世の中に協会と名の付く組織は、ごまんとあるがいずれの組織も人集め、金集めで苦労している。ご多聞に漏れず当協会でも苦労が絶えないが、以前と比較すると理事一人一人が濃淡の差はあるものの努力するようになったので、わずかではあるが息をつけるようになってきた。これも会長自ら率先垂範する姿をみて組織全体に大いなる刺激を及ぼしたからに違いない。

先年モロッコ王国で大きな地震災害が起り日本でも義援金の呼びかけがあった。

当協会は会長の呼びかけで1700万円を集め大使館に届け感謝された。期せずして協会の存在と活動を広く知らしめることとなった。

廣瀬さんは語学が達者で英語、フランス語を自由に操る。多くのアフリカ諸国の大使にも歴代モロッコ駐日大使等の仲介によって面識を広げているが、ここにも協会の関係者を同道する。このような配慮はかつて無かったことである。

各国駐日大使は、自身の国を代表しているという自負がありその折衝はなかなか厄介である。中には海千山千の難物もいる。廣瀬さんはかなり微妙な問題についても触れることがあるが度胸がいいのか決して尻込みしたり、遠慮しないでいうべきこと触れるべきことにはきちんと触れ筋を通す。受け止める相手の大使もさすがである。廣瀬さんの手ごわさを瞬時に察知するのであろうか、これまで意見が対立して一致点を見いだせず物別れで終わった事例は皆無である。

最初は仕事にのめり込むキャリアウーマンと思い一体家庭はどうされているか他人事ながら気になった

ことがある。

広瀬さんの国に尽くしてきた功績が認められ叙勲の祝いの会があった。その時紳士が名刺交換で目の前に現れた。自ら広瀬さんの伴侶と名乗った。名刺を見て有名企業のトップであることを初めて知った。私事で恐縮であるが家内を亡くして家事をすべてこなさねばならないが、主夫業は思ったより苦にならぬが唯一料理だけは苦手で一切できないし、しようとも思わない。かといって若いころからの習慣で独りではレストランにはまず入らない。

そこで広瀬会長は理事会開催時に時々惣菜の差し入れをしてくれる。これが滅法美味しいのである。一体仕事をこれだけこなして、いつ料理の腕を磨いたのか何だか失礼で問うのもはばかられるが不思議である。

いただく料理を見て面白いことに気づいた。長い海外生活がそうさせたのか全て肉料理である。魚料理はまったくない。

モロッコはマグロの回遊が盛んでよく捕れる。大使であったとき大きなマグロの差入れをもらい自身でさばいたという武勇伝を耳にしているので魚が苦手で敬遠しているはずはないし、協会の会員である築地の“すしざんまい”でもよく寿司をつまんでいる。

日本モロッコ協会は創立以来任意団体であったが、会長を側面から支える芳賀敏晴事務局長と共に面倒な手続きを行い、念願の一般社団法人の法人格を取得した。無論理事会で何度も議論を重ねた上でのことは言うまでもない。

協会主催でモロッコへのツアーを企画編成した。



中すしざんまい木村社長



モロッコツアー・ベルベルハウス



中広瀬会長モロッコツアーの昼食

元大使のキャリアを存分に発揮し回を重ねた。在モロッコの日本大使館において大使の講演や時にはモロッコの市民との交流やパーティーなど旅行社のツアーとは一味も二味も異なる内容で好評を博してきた。

費用を抑えるため、いわゆる“添乗員”は付けないでモロッコの諸事情に精通した広瀬会長自らが”添乗員”役を買って出た。ここでも元大使の経験と顔を遺憾なく発揮したのである。

昨今モロッコ王国から要人訪問が相次いでいるが、協会はその都度会長以下が対応するが、時にはモロッコの閣僚の応対や経済団体のミッションの来日もある。

ある時鎌倉市が主宰する“流鏑馬”があった。時を同じくしてモロッコから八十名におよぶ経済ミッションが来日した。会長は鎌倉市と交渉して80席を確保し通訳や世話役を買って出て双方から大きな拍手をもらったこともある。



モロッコ経団連副会長来日

モロッコ経団連副会長が来日し、大使館からの依頼で協会が応対した。会食会場まですべてのおぜん立ては広瀬会長が一人で手配し経済問題に詳しい役員を名指し対応した。関係者はその手腕に目を見張った。

フランス人ジャーナリストが来日した。

モロッコ大使館からの依頼で協会が対応した。

多岐に渡る話題になる可能性を危惧した会長は、協会のこれぞと目されるメンバーを選定し様々なテーマの問題に対応できる体制を整え臨んだのである。駐日大使や協会に貢献していただいた方などにお目にかかるときは、小さな土産物を自費で買ってきてさりげなく渡す心使いを見せる。男性ではとても気の付かないところであろう。元特命全権大使の肩書が物言うのか企業の非常勤取締役や東工大の特任教授を務めているが、一時忙しすぎて体調を崩した。律儀な性格がそうさせるのか、調子が悪くても役員会や大学の授業を休もうとはしない。そこまでしなくともいいのではないかと理事会でも囁かれていたが。

人間だれしも過去を振り向けば1度や2度の人生の挫折を味わっているが、この方は過去に挫折の経験はないのだろうかと思うことがある。東大を出て官僚となり日本国の大使を務め今も縦横無尽に活躍している。

弁もたつ論戦したらよほど周到に準備しない限り論破してしまう。しかし見ていて相手をとことん追い詰めることはしない。逃げ道をそれとなく用意する配慮も見せる。

広瀬さんは性格的にもストレスをため込む人ではなくむしろ限りなく陽性である。ストレスは仕事を通して発散してしまうのである。考え込んだり落ち込んだりする姿は、まず人に見せないのである。外部折衝などでまとまり難い案件は自ら出張り意思決定するが、しかし協会の人・物・金の制約を十分わきまえていて、まず則を超えることはない。

モロッコ王国は発展途上にあり日本の経済力には遠く及ばないが協会の資金が乏しく新企画をどう実現していくか悩むことがあるが、時には駐日大使とネゴを重ね賛助金を獲得してくる剛腕ぶりを發揮する。

広瀬さんの欠点や不満を見つけてみようと記憶を手繕るが思い浮かばないが、強いて言うなら慎重で用



右西尾 ENEOS 会長・広瀬・NHK 出川解説主

心深いように見受けられることがある。

時あたかも、かつて男尊女卑の風土にあった日本に初の女性総理、高市早苗氏が誕生した。様々な負の連鎖に楔を打ち、日本の改革改善に大ナタを振るってもらいたいと期待は膨らむがその姿は、モロッコ協会のリーダー広瀬会長とダブる。